

白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金概要

実施主体：大雪山国立公園上川地区登山道等
維持管理連絡協議会

実施期間：6月下旬～10月上旬

収受金額：1,000円（1人1回につき）

対象者：白雲岳避難小屋周辺登山道を
利用する方

収受方法：白雲岳避難小屋にて管理人が収受

協力金の使途：登山道の補修
補修技術の向上
情報発信 等

白雲岳 環境省直轄整備
避難小屋情報：2021年オープン（7～9月有人管理）
宿泊協力金 2,000円／人（小屋泊）
500円／人（テント泊）



協力金や登山道補修に関わる情報

白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金
（上川町ホームページ）
<URL>



協力金取組方針
<URL>



ヒグマ情報センター
<URL>



大雪山全体の情報

大雪山ビジョン
<URL>



大雪山国立公園連絡協議会
<URL>



発行
大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園管理事務所
01658-2-2574

「大雪山国立公園における協力金取組方針」

大雪山国立公園の 新たな保全の 仕組みを目指して

2021年の夏、大雪山国立公園の
白雲岳で、新たな協力金の取組
を開始しました。

対策が追いつかない山岳地域の
荒廃に対して、皆で守るモデル
的な仕組みを目指します。

大雪山の貴重な自然環境を将来
世代につなげていくため、
あなたにもぜひ知ってほしい取
組です。

大雪山国立公園連絡協議会

2022年5月

協力金の取組は何のために？

荒廃している山岳地域の課題解決のためです。

...特に登山道とその周りの荒廃を止めるための活動を行います。

課題解決のための新たな仕組みへ



登山道管理者だけでは解決が困難で、行政予算だけでは対応が追いつきません。

課題解決のために

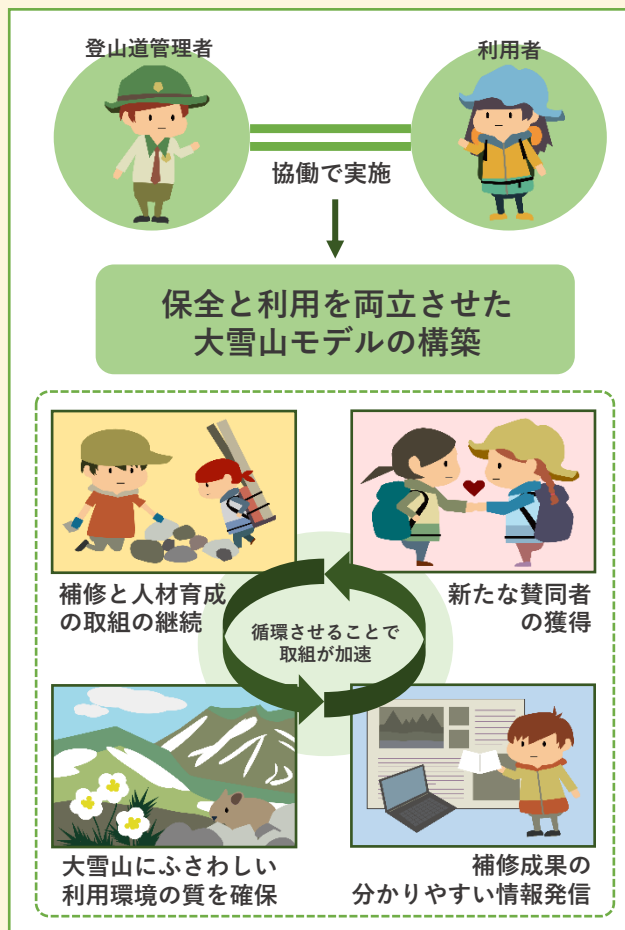
協力金の取組は、登山道を利用する利用者自身が保全に参加（※）する重要な仕組みになります。

※取組の趣旨に賛同する利用者が自主的に支払う考え方に立ち、強制ではありません。

何をを目指すの？

登山道の管理者と利用者が協働し、山岳地域を保全する新たなモデルを目指していきます。

登山道管理者と利用者の協働モデルへ

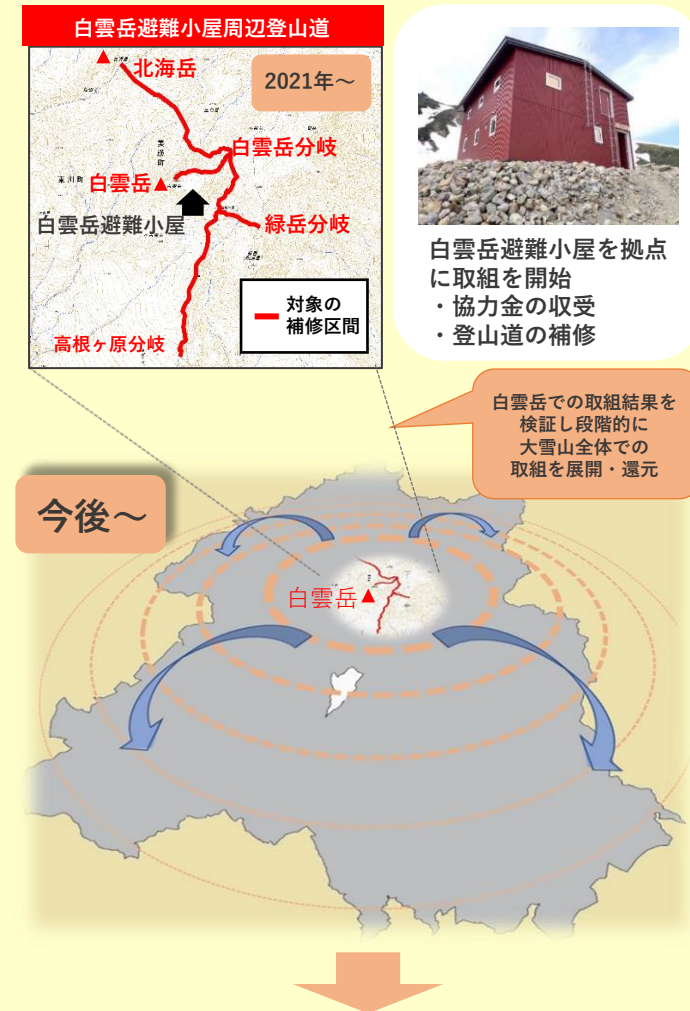


大雪山モデルの構築に向けて、定着させ、発展させていきます。

今後どのように進めるの？

白雲岳での先行地域を元に、大雪山国立公園全体に展開されるよう、地域連携を進めていきます。

試行的取組から本格的取組へ向けて



大雪山国立公園の価値を守り、将来世代に引き継ぎます。